



一般社団法人  
経済同友会インターンシップ推進協会

# 協会概要

## 一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会とは

経済同友会インターンシップ推進協会は、望ましい産学連携教育を実践する観点から、大学・高専の正課（授業）で教育効果の高い「経済同友会インターンシップ」を主催している一般社団法人です。当協会の趣旨に賛同する経済同友会会員企業の有志と大学・高専が会員となっています。

実習にあたり、会員の意向をベースに適切なマッチングを行って学生の成長を後押ししています。また、実習に関する成果報告会や会員による実務者交流会を開催することで、会員相互の成果の共有と連携を行い、次世代人材の育成に寄与しています。

### 名称

一般社団法人経済同友会インターンシップ推進協会

### 設立

2019年4月1日

### 所在地

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : kyokai@doyukai-internship.or.jp

### 代表者

代表理事 横尾 敬介

### 目的と事業内容

望ましい産学連携教育の実践の観点から教育効果の高いインターンシップを推進することにより、次世代人材の育成に寄与し、もってわが国の経済社会の発展に資することを目的として、以下に掲げる事業を実施。

- (1) 学生と企業を適切にマッチングするための情報の収集及び提供
- (2) 実習生OB・OGの組織化と現役実習生・企業・教職員との交流促進
- (3) インターンシップの推進、調整、実態把握及び連携協力

### 入会金

20万円 ※正会員のみ

### 年会費

正会員、準会員とも4月1日現在の会員に年会費をご負担いただきます。4月2日以降のご入会の場合、初年度は入会金のみ申し受けます。

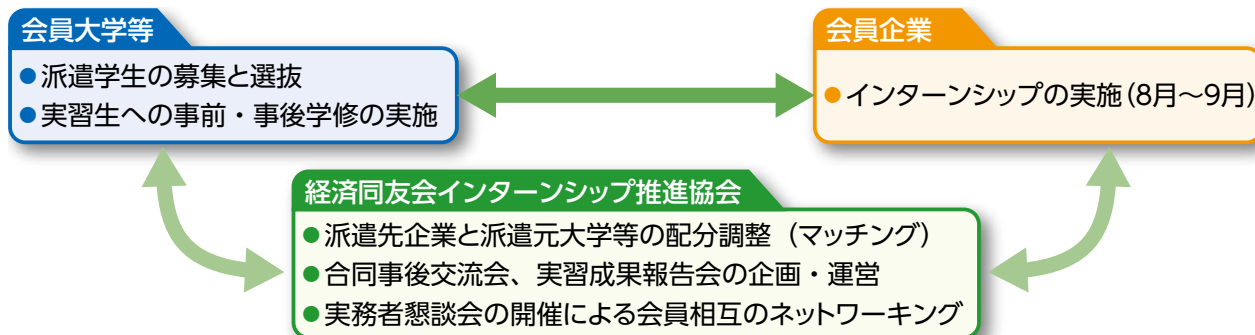
正会員 40万円

※大学・高専は派遣学生数6人まで同額。7人目から別途1人2万円追加。

準会員 5万円

# インターンシップの概要

会員大学等、会員企業と経済同友会インターンシップ推進協会の役割は次のとおりです。



## 望ましい枠組み

### 1 対象は大学1・2年生／高専本科4年生・専攻科1年生

早い時期から学生が実社会で学び、気づきを得ることでキャリア意識を涵養できます。早期の実社会体験で得た様々な気づきを以後の学修やキャリア形成に活かします。

### 2 単位認定を行い、正課教育の一環として位置づけ

大学・高専では、教員もプログラム内容に関与する正課授業として位置づけます。大学・高専は公募し、意欲ある学生を選抜して実習先へ派遣します。実習生への事前・事後学修を含めた教育指導により学生の成長を促します。

### 3 実習期間はおおむね2週間以上

おおむね2週間以上の実習期間が確保され、望ましい産学連携による教育効果の高いインターンシップが展開されています。(事前・事後学修を含む場合あり)

### 4 日本を代表する有力企業中心に学生を受け入れ、交通費・宿泊費を支給

学生の経済的負担に配慮し、実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受け入れ企業が負担します。

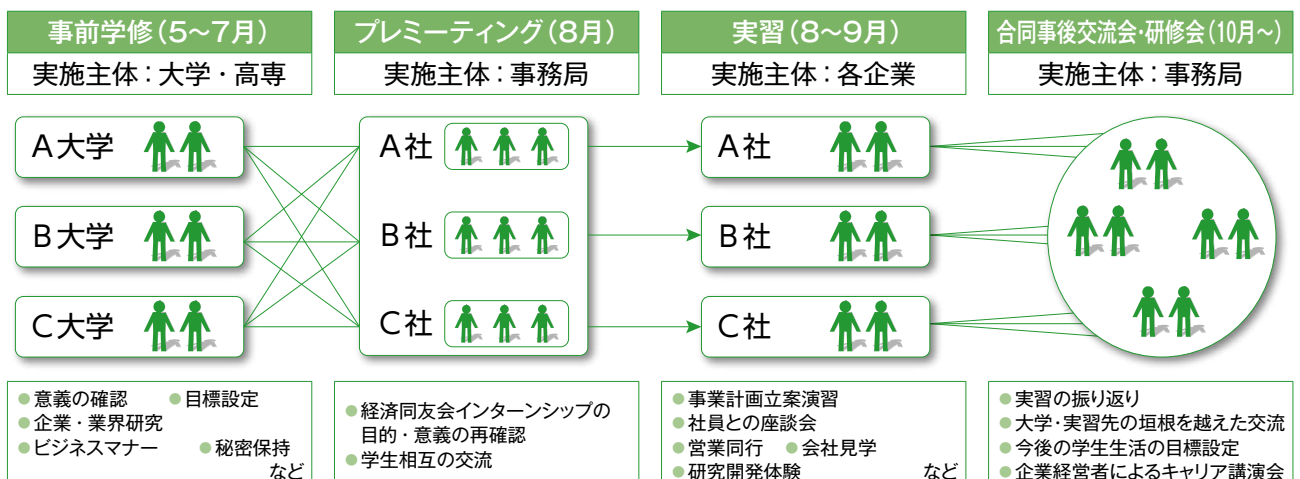
## 正会員企業・大学等数と実習生数の推移 (実績値)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
企業	24社	24社	23社	23社
大学・高専	14校	18校	19校	19校
学生	123名	61名	111名	152名

# インターンシップ実施の流れ

※各企業、大学、高専の事情により詳細は異なる

	企業	大学・高専	学生
12月		次年度の夏期休業期間調査	
1月	【事務局主催】実務者懇談会（方針説明）		
2月	次年度インターンシップの参加意向調査		
3月	企業及び大学・高専のマッチング枠確定		
4月	大学・高専からマッチング企業へ コンタクト開始	学生募集・告知	応募・選考
5月	インターンシップ プログラムの詳細決定 →実習に関する事前課題など を大学・高専へ提示	学生決定 実習生名簿を受入企業へ提出	
6月	→実習プログラムを事務局へ 提出	事前学修 インターンシップ参加の意義、目標設定、企業・業界研究、ビジネス マナー	
7月	企業と大学・高専の覚書の取り交わし		
8月			【事務局主催】実習生プレミーティング
9月	企業でのインターンシップ実習に学生が参加 大学・高専の教職員は、派遣先企業への訪問、成果報告会へ参加		
10月			学内実習報告会
11月			【事務局主催】合同事後交流会① 【事務局主催】合同事後交流会② 【事務局主催】合同事後研修会
12月	【事務局主催】実習成果報告会		



# 数字でみる経済同友会インターンシップ

## 学 生

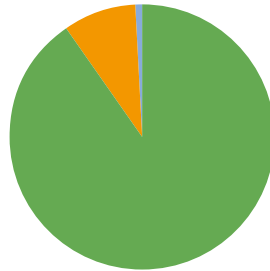
### ●2022年度実績

実習参加者数：152名（23社へ、18大学・1高専機構から学生を派遣）

実習後アンケート回答者数：148名 回答率：97.4%

#### 経済同友会インターンシップへの満足度

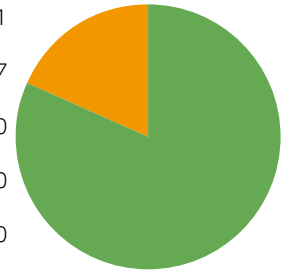
- 非常に満足している 134
- やや満足している 13
- どちらでもない 1
- あまり満足していない 0
- 全く満足していない 0



99.3%

#### 経済同友会インターンシップを通じた成長実感度

- とても成長したと実感できる 121
- やや成長したと実感できる 27
- どちらでもない 0
- あまり成長を実感できない 0
- 全く成長を実感できない 0



100%

## 企 業

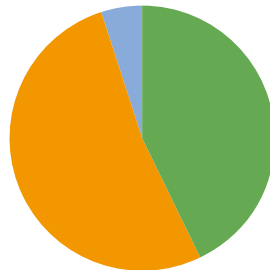
### ●2022年度実績

実習参加企業23社（18大学+1高専機構から152名の学生が派遣）

実習後アンケート回答社数：21社 回答率91.3%

#### 経済同友会インターンシップへの満足度

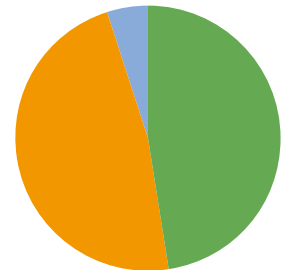
- 非常に満足している 9
- やや満足している 11
- どちらでもない 1
- あまり満足していない 0
- 全く満足していない 0



95.2%

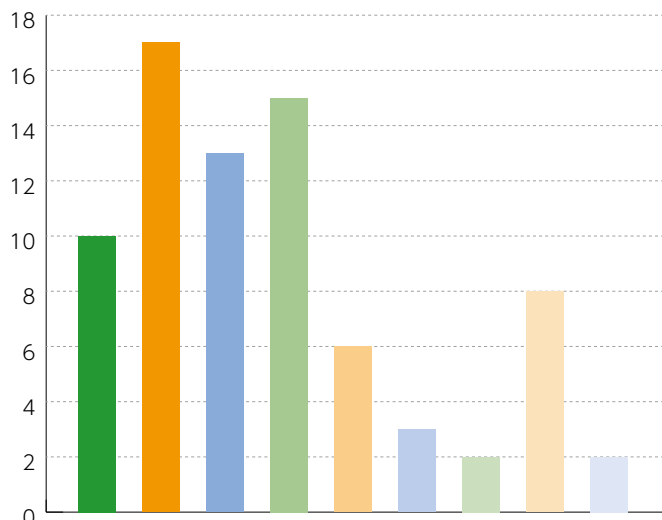
#### 実習に参加した学生に対する満足度

- 非常に満足している 10
- やや満足している 10
- どちらでもない 1
- あまり満足していない 0
- 全く満足していない 0



95.2%

#### インターンシップへの参画で得られた効果や成果



- 自社社員の育成・活性化を促す 10
- 仕事を通じて、学生に自社を含め業界・仕事の理解を促す 17
- 将来の顧客となり得る学生に対して自社に対する理解、イメージアップを図る 13
- 学生に就業体験の機会を提供することで、社会に貢献する 15
- 学生の視点からの提案や意見を自社に取り入れる 6
- 採用を意識し、学生のスキルを見極める 3
- 従来の採用とは異なるタイプの学生を見出す 2
- 産学連携の推進を図る 8
- 会員企業／大学との情報交換の機会を得る 2

# 実施に関するFAQ

## FAQ【企業】

**Q1** 学生の受け入れに際し、特定の学校を指定することはできますか？

**A** 当協会は、特定の企業に特定の学校の学生が偏らないよう留意して、マッチングを行っています。

**Q2** 一定水準以上の知識・スキル（語学力・ITスキル・特定の選考分野に関する知識など）を有する学生に限って受け入れることは可能ですか？

**A** 可能です。ただし、大学1・2年生又は高専本科4年生・専攻科1年生を対象とするプログラムであることにご留意いただき、過度に高度な知識・スキルを求めることはお控えください。

**Q3** 実習生に報酬を支払うことはできますか？

**A** 単なるアルバイトではなく、教育プログラムとしてふさわしい内容を備えている場合、報酬を支払うことは可能です。ただし、有償のインターンシップを認めていない大学・高専もありますので、派遣元の大学・高専に個別にご相談ください。

**Q4** 実習の一部または全部について、自社が独自に行うインターンシップと合同で実施することはできますか？

**A** 実施できます。ただし、所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保できているかという点と、正課科目で単位が認定される教育プログラムとして相応しい内容を備えているかという点にご留意ください。

**Q5** 部門ごとに対象となる学生を変えて、複数の実習プログラムを設けて、学生を受け入れることはできますか？

**A** 所定の実習期間（概ね2週間以上）が確保されていれば、同一企業内でも、複数の実習プログラムを設定していただくのは問題ありません。

**Q6** 会員となっている企業だけでなく、グループ会社でも実習を実施しても良いですか？

**A** 会員企業の実習の一部として受け入れ可能です。ただし覚書などは会員企業が大学等と締結していただけます。

**Q7** 弊社では在宅勤務が一般的になっており、オンラインのみで実習を行いたいと考えていますが問題ないですか？

**A** 様々な勤務方法があることを知ることで学生の気づきになります。一方で、学生たちは、社員の方や他大学の学生との交流も楽しみにしていますので、オンラインと対面を組み合わせるような工夫をいただくとありがたいです。

**Q8** このインターンシップは正課（授業）として扱われるとのことですが、現場での実務体験に加え、理論など、知識習得型の座学プログラムを盛り込む必要はありますか？

**A** 企業の実務をリアルに経験すること自体に教育効果があると考えていますので、座学プログラムは必須ではありません。ただし、学生を実務に従事させるうえで、知識の習得が必要と判断される場合は知識習得型の座学プログラムを盛り込むことに差し支えありません。

# 実施に関するFAQ

## FAQ【大学／高専等】

**Q1** 派遣する際に特定の企業を指定することはできますか？

**A** 派遣先企業の指定はできません。  
当協会では、特定の学校の学生が特定の企業に偏らないよう留意してマッチングを行っています。

**Q2** 6名を超えて学生を派遣する場合、人数の指定は可能ですか？

**A** ご希望人数をお示しいただくことは可能ですが、必ずしもご希望の人数枠分をマッチングできるわけではありません。

**Q3** インターンシップに参加するにあたり、単位認定を必ず行う必要がありますか？

**A** 経済同友会インターンシップは、正課教育の一環として行っているため、実習生に対しては、各大学・高専の基準に則り、単位を認定していただくことが必須です。なお、単位数の指定はありません。

**Q4** 学生の派遣に際し、各大学・高専の学年暦や夏休みなどを考慮していただけますか？

**A** 事前に夏期休業期間を確認させていただき、派遣先企業の日程と調整してマッチングを行っています。

**Q5** 大学・高専が実施する事前・事後学修について、日数や内容の条件・制約はありますか？

**A** 大学・高専で工夫を凝らして自由に実施していただいていますので、条件や制約等はありません。

**Q6** 大学3年生を派遣することは可能でしょうか？

**A** 大学・高専の低学年を対象としていますので3年生を派遣することはできません。

**Q7** 意欲の高い学生が多かったため1つの企業に予定派遣枠数以上の学生を派遣したいですが良いでしょうか？

**A** マッチング枠数以上の学生を企業に派遣することはできません。

**Q8** 派遣学生を集めることができず、マッチング数の学生が確保できません。

**A** 必ず大学等からマッチング企業へ学生を派遣してください。以下にグッドプラクティスを記載しますので参考にしてください。

### 大学等から企業へ学生を派遣できない事例を防ぐグッドプラクティス

- 学生が応募する際に、実習を希望する企業を複数回答できるようにしている
- 募集時に教職員が学生の興味や関心を惹きつけやすい企業紹介を行うことで、割り当てられた各企業枠への応募数を増やす工夫をしている
- 大学等の担当者が企業の担当者と連絡を取り合いながら、参加できる学生の範囲（学部・学科、専攻など）を広げる工夫をしている
- 教育としての就業体験を目的としている点から、学生が応募する時点では実習希望企業を聞かずに学生を选考し、派遣学生が決まったあとに、専攻等を踏まえて派遣先企業を割り当てている
- 完全公募ではなく各学科の教員が派遣することで成長が期待できる学生を推薦し、選考を行っている

# 学生の体験談

## 自己理解とキャリア形成へ繋がるインターンシップ

**実習先** イオン株式会社(2022年度)

**大学名** 埼玉大学 工学部  
情報工学科3年

矢作 大河 さん

私はインターンシップを通して、将来の働くイメージを想像し、キャリア形成に活かすためにイオン株式会社様のプログラムに参加しました。

実習では、300社以上のグループ企業を有する企業ならではの経営方針・戦略、サステナビリティ活動、DX推進活動について学び、また、社員の方との座談会を通して、実際に働くということへの考えを深めることができました。

実習の課題として、ある店舗における売上データをもとに新たな経営戦略を提案することにグループで取り組みました。ワークでは「他者と協調しながら成果物を作りあげる」という経験を積むことができ、チーム活動で要求される協働力、コミュニケーション力、リーダーシップなどが学べました。一方で、会話から要点を掴み、文章にまとめる力が不足していることに気づくことができました。さらに同じチームだった他大学の参加者の取り組みから、データ分析の知識の必要性にも気づくことができました。

実習後の担当社員の方からのフィードバックでは、自分では気づけていなかった様々な点から評価やアドバイスをいただくことができ、現在は長所を伸ばしながら、必要となる様々なスキルを身につけるために能動的に活動しています。

この度のインターンシップ参加にあたりご支援くださった皆様に心より感謝申し上げます。

## 学部2年次に社会に飛び込む意義と得た学び

**実習先** 株式会社キッツ(2022年度)

**大学名** 工学院大学 工学部  
機械工学科3年

中村 燎人 さん

私は株式会社キッツ様のインターンシップに参加し、既存バルブ製品の改良を軸にした業務体験や施設見学等を行いました。大学での専門科目の応用を学び、社会で働く実感を大学2年のうちに得て技術職への適性を知ろうと考えたため、参加を決めました。

期間中には多くの事を学びました。まず、大学での学びと実務の差異を知りました。両者は地続きであるものの実務で必要とされる知識はより細かく、企業で活躍するには両者を関連付けての理解が必要です。そのほかにも、社会人として必要な行動を知ることができました。特に、常に知識の更新に対応するためメモを取って復習することや伝達事項を確実に伝えるコミュニケーションは業務に欠かせません。得た学びから、私は理解できなかった箇所を積極的に質問してその内容をメモし、それをもとに担当の方との打ち合わせをしました。これらは実社会では非常に重要なスキルだと思います。

キッツ様での経験はかけがえのないものです。受け入れてくださったキッツ様や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。得た学びを活かし還元できるよう、日々精進します。

## 大学とは異なる時間配分と役割分担の学び

**実習先** 第一生命保険株式会社(2022年度)

**大学名** 昭和女子大学 グローバルビジネス学部  
会計ファイナンス学科3年 新見 凧砂 さん

私は大学での学びを通して生命保険業界に関心を持ち、働いている方々からお話を聞いて仕事への理解を深めたいと考え、第一生命保険様の実習に参加しました。

初めて参加したインターンシップということもあり、苦勞の連続でしたが、担当社員の方から評価と助言をいただき、将来の進路選択の課題を明確にすることができました。

実習は日本各地の大学から合わせて11人の参加者と一緒に課題へ取り組みました。一番苦勞したのは、グループワークの時間配分と役割分担を意識することです。ワークにおける資料作成の締め切りが厳しく設定されていて、情報収集の効率化を心掛けるなど、これまでの自分のやり方を見直す良い機会となりました。

また、多様な参加者との共同作業を経験し、一人一人の認識の違いをしっかりと把握しつつ、聞き手の存在の重要性に気づくことができ、役割分担の際にはアイスブレイクなどを通じて相互理解を補うことの必要性も実感しました。

実習後に参加した経済同友会インターンシップ推進協会主催の合同事後研修会では、振り返りの重要性、個人としての価値を高める方法、柔軟な思考を身に着けることの大切さを知ることができ、未来に向けた設計図を鮮明に描くことができました。

充実したプログラムをご提供していただいた皆様に心より感謝申し上げます。



実習の様子



# 企業の評価

一人ひとりの成長速度や意欲の向上に  
繋がるよう次世代育成を支援

双日株式会社 人事部 人材開発課  
キャリアコンサルタント

長島 裕子 様

早期に学生の就業観形成を促し、キャリア形成の支援、国内の経済発展の一助としての社会貢献活動を行うことを目的とし2022年度より参画しています。

インターンシップ期間中は常に学生と若手社員との一体感がありました。ディスカッションも盛んで、お互いに学びあい、社会に出ることに若干の不安があるなかでも次世代を担う自負を感じる場面もあり、前向きな姿勢に頼もしさを感じました。

経済同友会インターンシップに参加することで、幅広いビジネスを体験できるとともに、全国から集まる同世代の仲間と交流し、仕事に対する価値観や人生観など世代や地域を超えて話し合う機会となります。

子供の頃から変遷してきた将来の夢を明確にしていく大切な時期に、視野を広げキャリアに対する考えを整理する糸口となり、将来への希望を持ち続けて頂ければ幸いです。

「企業、自己、キャリア」3つの問いが生む  
企業と学生の成長の場

住友林業株式会社  
人事部スミリンビジネスカレッジ

小林 果鈴 様

弊社では6日間のインターンシップを通じて、参加学生の皆さまへ「企業とは?」「自分とは?」「キャリアとは?」という3つの問いを探求し、「働く」ということへの総合的理解の深化を目的としたプログラムを実施しました。企業理解については、400年以上にわたる住友の歴史や事業精神を踏まえ、経営理念と事業内容、提供価値を理解いただくことと、企業経営における課題を踏まえた新規事業提案ワークを実施。また、期間中は徹底した相互リフレクションによる自身の強み、弱み、キャリア軸の自覚を促し、インターンシップ生同士が対話を通じて互いに成長し、これからのキャリア形成について考える場の創出を目指しました。

大学も出身地もまったく異なるバックグラウンドを持つインターンシップ生が集まり、世代も価値観も異なる社員との対話を重ねることにより、学生の皆さまのみならず企業と学生たちに関わる全ての社員にとっての成長機会が共創されたと感じています。

# 大学の評価

挑戦を通して切り開く一人ひとりの未来に  
向けて

京都橘大学  
共通教育推進室 室長

平尾 毅 様

本学のキャリア教育では、自身や周囲の環境の未来を構想する未来構想力と、自らの境界を超える越境力の育成を全学的な柱として、不確実な社会の中で自律的なキャリアを構築できる人材の輩出を目指しています。

経済同友会インターンシップに参加した学生の声を聞くと、多様な価値観や専門性をもつ人たちが仕事を通じて課題解決していくプロセスにかかわり、自らの学びや人生を熟考するきっかけになっています。AIやe-learningの普及に伴って、目的・時間・場所を共有した集合知による知識創造がますます重要になる中、貴会のインターンシップは次代を担う若者のキャリア開発・形成支援にとって大変意義のあるものだと思っています。

異なる文化や価値観を共有できるチャレンジングなインターンシップの機会をいただけることに関係各所の皆さまには、大変感謝しています。さらなる連携強化をさせていただき、不確実な社会を自ら切り開く力を身につける非常に貴重な機会に、より多くの学生が挑戦できるよう、大学として後押ししていきたいと考えています。



実習成果報告会の様子

# 入会のご案内

## 経済同友会インターンシップの主旨に賛同され、ご入会を検討される企業・大学の方に

- 当協会には、企業・大学・高専いずれも法人会員として入会いただいております。
- 企業のご入会は、公益社団法人経済同友会会員の所属企業に限らせていただきます。
- 入会金20万円 ※正会員のみ
- 年会費40万円

企業は、一律40万円です。大学・高専は、40万円に学生6人分の派遣費を含んでおり、7人目からは、別途、1人2万円をいただきます。

### ■企業の方

研修プログラム内容などについて実習生派遣校の教職員との連携・協力・調整を行うとともに、学生の宿泊費・交通費などの費用をご負担くださり、おおむね2週間以上の期間、学生を受け入れていただける企業にご入会をお願いしております。

### ■大学の方

大学・高専の正課（授業）として単位を付与して実施するもので、学生の受け入れのための宿泊費・交通費などの費用については企業にご負担いただいております、大学・学生の負担はありません。

自ら参加を希望する意欲・意識の高い学生を選考して、事前・事後の学修を実施、おおむね2週間以上の期間にわたる研修プログラムなどについて、派遣先企業との連携・協力・調整を十分に行っていただける大学にご入会をお願いしております。

## 入会のメリット

### ■企業の方

- 望ましい産学連携教育として、会員大学・高専から高い支持を得ているインターンシップ事業に参画いただくことで、企業として次世代人材の育成に貢献することができます。
- 全国の特徴ある大学・高専から選抜された意欲的な学生を対象に比較的長期の実習を行うことで、企業や業界に対する理解と認知度の向上が得られ、将来の採用につながる効果も期待できます。
- 学生のピュアな感覚・斬新なアイデアに接することにより、指導を担当する社員の育成にも寄与します。
- 実習成果報告会など会員相互の交流機会により、企業の人事・採用担当者と大学・高専のキャリア教育担当者のネットワーク構築につながります。

### ■大学の方

- 日本を代表する企業のインターンシッププログラムに参加することができます。
- 学生の仕事についての理解が深まり、自らの職業適性を見極めることができ、有意義な職業選択につながります。
- 実習先までの交通費と実習期間中の宿泊費は受け入れ企業にご負担いただくことにより、学生は安心してインターンシップ実習に取り組むことができます。

# 役員紹介



会長

新浪 剛史

経済同友会  
代表幹事

## 望ましい枠組みとしての

## インターンシップが社会を変える

グローバル化やデジタル化の進展により、世界経済が目まぐるしく変化するなか、学生へのキャリア教育の必要性はますます高まっています。

大学での学びと企業や社会での学びを連続的に捉えたうえで、世界で活躍する人材を育成するために、経済同友会は「インターンシップの強化・充実」を提言しました。

経済同友会インターンシップ推進協会は、この提言を具現化するために設立され、趣旨に賛同する会員企業・大学等により、望ましい枠組みとしてのインターンシップが展開されています。大学・高専は正課として単位を付与し、企業は充実した現場指導とともに費用を負担するなどして学生の成長を後押ししています。

次世代人材の育成を通じた社会貢献の取組みに共感する多くの皆様にご入会を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。



代表理事

横尾 敬介

産業革新投資機構  
代表取締役社長 CEO

## 企業という実社会で学ぶ

## リアリティが学生を成長させる

これからの混沌とした時代を生きていく学生たちにとって、教育効果の高いインターンシップは一層重要性を増しており、企業という実社会で学ぶリアリティは、教育機関が提供できない貴重な体験です。

企業では、さまざまな価値観を持つ人々がその能力に応じて役割を担い、協力し合うことで、全体の成果に結びつけています。

当協会のインターンシップは、意識の高い学生たちが早い時期からこうした人々に学ぶ機会を提供しており、多くの“気づき”を得ることができます。

教職員の皆様には、貴重で得がたい体験を経て、キャリア・デザインを描きながら努力する学生たちの成長支援をお願いいたします。

当協会は、学生時代にしっかり学び、卒業後に社会で活躍する若者たちをサポートして参りますので、志を同じくする皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

専務理事・事務局長

宍戸 尚子

経済同友会 調査役

理事

天羽 稔

TGA 取締役会長 元デュポン 名誉会長

大久保 伸一

凸版印刷 代表取締役副社長 執行役員

尾崎 由紀子

野村ホールディングス 執行役員

高祖 敏明

上智大学 名誉教授

矢口 悦子

東洋大学 学長

監事

小野 傑

西村あさひ法律事務所 オブカウンセル

入澤 崇

龍谷大学 学長



一般社団法人

経済同友会インターンシップ推進協会

〒100-0005

東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階 経済同友会事務局内

E-mail : [kyokai@doyukai-internship.or.jp](mailto:kyokai@doyukai-internship.or.jp)

<https://www.doyukai-internship.or.jp>



2023.07 作成